

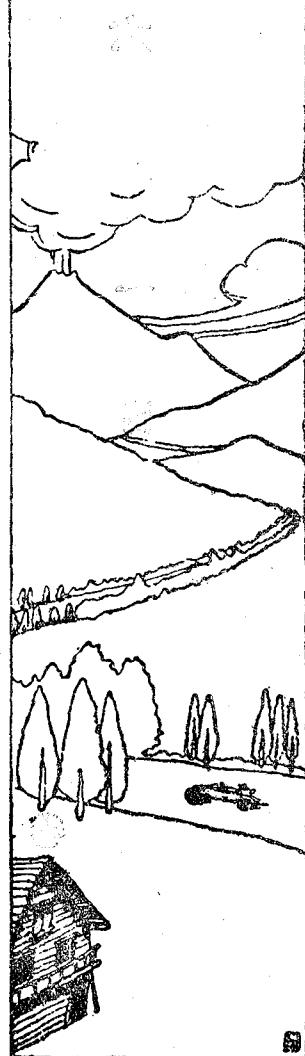
論說

東京市街路工事に就て當局者に望む

工學博士 岡野昇

緒言

較近我國は自動車の輸入が餘りに急激であつた爲に、東京市の道路はこれに應するだけの幅員を有つて居なかつた所に速に其の數が増して來た。隨つて道路の擴張並にその鋪裝等に就て急速に改良を加へる必要が起つて來たのであるから、當局者の此の間に處する苦心は鮮ならぬことであらうと考へる。これと同時に又一方都市計畫が確立されて、これが爲に區劃整理等の事業も着々進行していくに伴れて、一にも道路、二にも道路と道路の擴築工事が重なつて來たので、工事上非常な混雜を



來たして居る状態にあることは誰が當局者となつても免かれることの出來ない結果ではあらうと思ふ、けれども其の局に當る者は成るべく工事を迅速にし、交通の不便を最小限度に止めて、市民に最小の不便を與へつゝ一日も早く工事を完成せしむることを考慮しなければならぬと考へる。これに就て工事の方法並に修築材料等に關して自分の考へる所の一端を述べて見ようと思ふ。

市民全般の便不便

吾々が平常道路を通りつゝ見て居る所では、道路を掘起した土、道路鋪装に要する材料之れを運搬する所の車馬、工事用機械の据附け等を、無遠慮に道路の真中に据えて、而かも其の工事はカカク、捲らないで長い時日を費して居る其の間、そこを通行する車馬の交通上に甚しき混雜を來たして居るのは屢々目撃する所である。

一體道路といふものは市民全般の道路であつて、決して市役所の道路ではない、交通上の便不便といふも市民全般の事である、若し市民が店頭に通行の邪魔となるべき物品を置いた時には、警視廳は直ちにこれが撤去を命ずるのであつて、これは當然の處置と考へるのであるが、然るに市が道路を修築する場合に於ては、今日の道路工事の状態の如く長い時日の間交通を妨害して居るといふことを黙過して居るのは如何なる理由であるか、洵に諒解に苦しむ所である。機械の据附けは先づ據ないものとしても、土の始末又砂利、砂その他の修築材料の置場といふものは、別に其の置場を設けて、道路の真中に置くやうな事をしないでも工事を施行することは出来る筈である、其の爲に生ずる多少の経費支出は當然犠牲としなければならぬ事であらう。それも夜業をもやつて、また晝間も急速に工

事を施行し、サウして一日も早く工事をするのならまた格別だが、動もすれば休む、夜は休む、而かも其の一時に掘起す區間が非常に長い、サウして工事を遅延さして置いて、其の間市民の交通の邪魔をして居るといふことはドウしても當局者は何とか改良をしなければならぬ點であり又警視廳も遠慮なく取締らなければならぬ所であつて唯交通巡査さへ付添はして置けばよいといふ理ではない市が不都合な工事をして之れが爲市民が巡査から叱られると寧ろ或る道路の工事中は全然車馬の通行を暫くの間とゞめて、唯だ其の兩側に住居する市民の出入だけを許し、サウして出来るだけ短時日の間に工事を完成せしむる方法を探ることも亦一つの手段であらうと思ふ。要は工事を迅速に施行したいものである。

最小限度の迷惑にして欲しい

外國の道路修繕は、イツその道路を修理して居るのか、殆んど吾々の眼に觸れない、少しも觸れた事は無い位である。然るに東京市の道路は假に或る地點から或る地點まで自動車で行くとすれば、其の間に年中三ヶ所なり四ヶ所なりの道路修繕を眼にしないことはない、而かもそれが或は一箇月、或は二箇月もの長い時日を費して居る是れが爲切角の自動車も速度を出すことが出来ないのみならず反て甚だ危険であるといふことは、如何にしても市民の忍ぶべからざる所の事柄と考へる。要するに前段述べた如く期日は短かく、一時に着手する區間は狭く、材料その他は始末よく別の場所に之れを貯蔵する。左様にして最小限度の迷惑を與へることに於て工事を速成せしむるといふ事を何としても當局者は考慮する義務があると思ふ。

小破損の時修理せよ

又之れを道路鋪装用材料に就て申して見れば、日本人の癖として先づ道路の鋪装をやらうといふ事になると、鋪装として一番何が理想的であるかといふ事を先以て暫くの間研究を重ねて居つて、やつと假にアスファルトが宜しいとか、木煉瓦が宜しいとかいふ事が決定されたとすると、そこで始めて其の材料を以て工事を施行する。其の間に先づ相當な長い時日を費やしてしまふ。而して其の決定したる材料は、音響、塵埃その他の點から見て、鋪装材料としては理想的なものであるが、其の强度に於ては他の材料よりも弱いといふ物が撰ばれる。これが市内の道路全部完成した暁に於ては、その修理も手が行届くであらうが、今日の状態に於ては未だ新たに鋪装する所も澤山残つて居るし、既に鋪装を終つた所の道路は其の材料が弱くして片端から壊はれて行く其の修理もやらなければならぬ。結局は既に竣工した鋪装の修理に追はれて、サウして新しく鋪装をする方に手が伸びないと、いふ結果に到達する外はないと思はれる。是は或は工事の施行能力からも來ようし、豫算の關係からも來よう、譬へて見ればアスファルト道路といふものは其の凹凸を生じ若くは龜裂を生じた箇處の上に、僅かのアスファルトを流して、即ち小修繕を以て道路を修理して行くといふ特色のある用材たるに拘らず、東京のアスファルト道路は、修繕となると全部下から更に掘起して、新たにアスファルト道路を築造して居るのを屢々見受けるのであるが、斯の如きはアスファルト本来の特長を没却して居る、随つて不経済なことになるのであらうと思はれる。これは何故サウいふ事になるかといふと、小破損の時分に之れを修理する手が行届かない、遂に大破損をするに至つて始めて修理するから。

根柢から崩して築造しかへる即ち再築しなければならぬといふ結果に陥るのではなからうかと思はれる。

強度な御影敷石の鋪装

そこで自分の考へる所は、始めから其の理想の鋪装をすることをやめて、理想には稍々離れて居つても丈夫であつて暫くの間修理をする必要の無い鋪装材料、例へば御影の敷石の如き鋪装材料を以て、此の際成るべく廣く早く、全般に涉つて道路の鋪装を終る、斯ういふ事にして行つてはどうかと考へられるのである。御影の敷石道路は、アスファルト、木煉瓦に比較して音響も高からうし、又抵抗も多いには違ひない併ながら其の強度に於いては遙かに前の二者に優つて居るのである。贅澤を言へば界限がないが併しイツ迄も鋪装の無い土の道路の上を歩くよりは御影の敷石の方が遙かに良いのであつて、又現に歐米の大市街の一部には、御影敷石が敷かれて残つて居るといふ所から見れば、斯様な鋪装を東京市に施した所で、別に大した不都合はなからうと思はれる。サウして全市の道路の鋪装工事が追々進行して其の終期に至つた時は、或は其の一等道路の御影の敷石を二等三等の道路の方に廻はして、ザウして一等の道路を理想的の材料を以て改造しても宜からうと思はれる。

修築を分部的にしてはドウか

それから道路鋪装の施行順序に就いて言うて見れば、今日の東京市のやり方は、或る幹線の道路を一端から一端に先以て鋪装して行くやうに見受けられるが、これも一つ考慮を要すべき點がありはしないかと思ふ。今の施行のしかたに依ると、例へば東京を東から西へ走つて居る道路は一本鋪装

が出来た斯う假定するとその一端から一端まで行く交通には非常に便利であらうけれどもそれと同時に總べての交通がその道路の上に集まつて来る急激に交通量が増加する、隨つて其の道路の破損も甚しい常に修理を加へて行かなければならぬ、隨つて市民は常に交通の妨害をされると見なければならぬ結果になる。而して其の道路の左右のちよつと離れた家からは僅か一町半町の所に行くにも、其の道路と直角の方向に歩くには足駄^{あしだ}を穿いて歩かなければならぬ、即ち鋪装道路の左右少し離れた市民には、新たなる鋪装の恩典に浴さしめないで反て工事中の不便を感じしめるのみといふ事になつて居る。であるから道路の修築をするには所謂部分的に縦も横も部分的に鋪装を行して行く、サウすれば先づ其の鋪装された或る範囲内に居住して居る者は、その近所へ買物に行くにも足駄^{あしだ}を用ひなくても歩きかれるといふ結果になつて、之れを段々範囲を擴めて遂に市全部に及ぼすといふ順序に依つて鋪装工事を進めて行くといふ事も、考て見なければならぬだらうと思はれる。

結論

要するに自分は徒らに當局者のやり方を非難するといふ考は毛頭無い、要は當局者は、道路は市民の道路なりといふ考を根本とし市の都合のみを考へず幾分なりとも經濟的に又工事中交通の妨害を最少限度に止めるやうに、今少しく考慮を費やして戴きたいといふことを希望するに外ならんのである、無論尙ほ此の他に研究すべき點は多々あらうと思ふけれども、今自分の氣づいた點を二三茲に申述べる次第である。